



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ボールを打つ時のスイングによるクラブヘッドの移動方向と直角方向の回転軸を持ったローラが、その下部がクラブ底面より突出するよう設けられていることを特徴とするゴルフクラブ。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ゴルフクラブに関するものである。

【0002】

【従来の技術】ゴルフクラブは、ゴルフボールを打つための道具であり、その用途によってウッドクラブ、アイアンクラブ、パターの3種類ある。

【0003】そしてこのゴルフクラブは、材質や形状等に関して種々改良されており、現在のものは、打球の飛距離、正確性共に数十年以前のもものと比較すると格段に優れた扱い易いものとなっている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、現在のゴルフクラブをもってしても、ゴルフは初心者が直ちに楽しめるといったゲームではなく、ただまっすぐに飛ばすことでも多くの練習を要するものである。特に多いのは所謂ダフリと呼ばれるもので、ボールの手前をたたくために、ボールに当たるまでに土の抵抗によりクラブが減速してしまう。よって、まっすぐ当たってもほとんど飛ばない事態が生ずる。また、土の抵抗によって、クラブのスイング軌道自体が変化し、思った方向に飛ばないこともしばしばである。

【0005】更に、このダフリを警戒するあまり、今度は逆に所謂トップ、即ちボールの上部を打ってしまうということもよくあり、これもまたほとんど飛ばない。

【0006】ダフリを防止するには、クラブヘッドが地面に入らないようにすれば良いわけであるが、例えばヘッドスピードを小さくするための抵抗を与えるといった方法では、クラブヘッドが地面に入らなくなりダフリは少なくなったとしても飛距離はききたいできない。よって、通常の地面すれすれをスイングする場合には、抵抗とならず、地面の手前をたたきそうなスイングの場合、ダフリを防止できればよいのであるが、このような矛盾した効果を発揮できるものではなく、結局ダフリとトップに苦勞することとなっている。

【0007】また、ボールを狙い通りの方向に飛ばすためには、狙っている方向に直角にクラブヘッドを当てる必要がある。しかし、これもまた初心者には難しい。どうしても角度が付いてしまい、直角でなくなる。これもできる限り防止したい。しかし、そのように直角に移動するようなヘッドはなく、前記同様苦勞することとなっている。

【0008】結局、これらのことは練習不足に起因する失敗として諦めざるを得なかった。しかし、練習時間が

わずかな平均的サラリーマン等では、より簡単にダフリを防止する方法や道具、及びヘッドをできるだけ直角に当てる道具等が要望されていることも事実である。

【0009】

【課題を解決するための手段】以上のような現状に鑑み、本発明者は鋭意研究の結果本発明ゴルフクラブを完成したものであり、その特徴とするところは、ボールを打つ時のスイングによるゴルフクラブの移動方向と直角方向の回転軸を持ったローラが、その下部がクラブ底面より突出するよう設けられている点にある。

【0010】ゴルフクラブの移動方向とは、クラブヘッドの軌道であり、通常はゴルフボールを飛ばそうとする方向である。

【0011】ローラとは、自由回転できる回転体であり、金属、ゴム等その材質はどのようなものでもよい。また、形状は棒状又は筒状である。1本のクラブヘッドに取りつける数は、1～数個で、長いローラならば1つ、短ければ複数ということとなる。このローラの取付け方は、クラブヘッドの内部に自由回転できるようにさえ取りつけられればよく、特別な方法である必要はない。

【0012】また、ローラの下部はヘッドから突出していなければならない。これは、インパクトの正常な角度で載置した場合に、ヘッドの底部よりも下方に突出しているという意味である。逆に、まったく埋没した部分がなく、すべての部分がクラブヘッドの底部から突出しているようなタイプでもよい。このタイプでは、ローラが小さくなるため効果は小さいが、製造が非常に簡単で安価である。

【0013】本発明においては、ゴルフクラブとして、ドライバー（ウッドの1番）やスプーン（ウッドの3番）のようなウッドクラブが好ましい。これは、通常ボールを払うように打つため、クラブヘッドが地面に入ることがないためである。アイアンクラブのように所謂打ち込みを行なうものでは、ローラが抵抗となり好ましくない場合がある。しかし、ロングアイアン等では利用できることもある。

【0014】また、パターにおいては、ローラの直進性を利用して、狙いの方向に正確に振れたり、曲がったりせずにヒットできるため有利である。

【0015】

【発明の実施の形態】以下図面に示す実施の形態に基づき本発明に係るゴルフクラブをより詳細に説明する。図1は、本発明をドライバー1に利用した例を示すヘッド2の正面図である。内部は、点線で示す。ドライバー1のヘッド2の下部に、ローラ3が一部突出するよう設けられている。ローラ3は、その軸に可回転に（ベアリング等も用いて）設けられており、ほとんど抵抗なく回転する。図2は、図1の底面図である。ヘッド2の正面近くに設けられているのが分かる。この例では、ローラ2は金属の筒状であるが、打撃に対して充分な強度があれ

3

ば他の材質のものを採用してもよい。また、クラブヘッド底が地面に当たりローラー2が回転を始めた場合、ローラー2表面と地面とがスリップしないように、該ローラー2表面に防滑手段を講じるようにすると直進性は更に向上する(図示せず)。

【0016】図3は、ローラ部分が全く埋設部分を有しておらずすべてクラブヘッド2の底部よりも突出している例である。この例では、ローラ3は支持具4に可回転に取り付けられており、その支持具4はヘッドの底部にネジ止めされている。本例は既成クラブの改造によって

本発明クラブが製造できることを示すものであるし、これまで示した例に比して製造コストを安価にするための例ともなっている。

【0017】図4は、パター5に本発明を応用した例を示す。この場合、2つの小さいローラ3を、図1に示す

例と同様一部突出させている。

【0018】  
【発明の効果】以上詳細に説明した本発明ゴルフクラブには次のような大きな効果がある。

① ローラが一部又は全部底面から突出しているため、

地中にめり込む所謂ダフリが生じにくい。

② ローラの回転により、地中に入ろうとするヘッド

4

を、地面に平行に滑らす力が働く。これにより、ダフリをより防止する。

③ ローラの直進性により、ヘッドが地面に接すると、クラブヘッドがボールに直角に当たる方向に力が働く。

④ パターのようにゆっくりスイングする場合でも、ローラに沿ってスイングするとまっすぐスイングすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るゴルフクラブの1例を示す部分正面図である。

【図2】図1に示す例の底面図である。

【図3】本発明に係るゴルフクラブの他の例を示す部分正面図である。

【図4】本発明に係るゴルフクラブのさらに他の例を示す部分正面図である。

【符号の説明】

1 ゴルフクラブ

2 クラブヘッド

3 ローラ

4 支持具

5 パター

【図1】

【図2】

【図3】

【図4】

